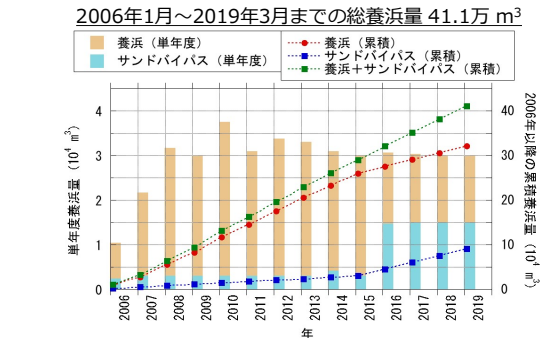
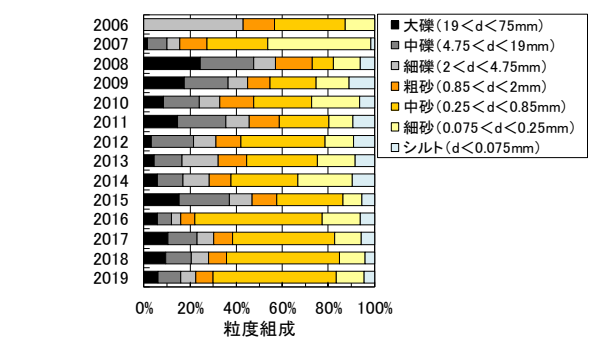


第15回協議会  
平成31年3月23日  
(16:00~18:54)

[主な議題]  
Ⅰ 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価  
Ⅱ 養浜環境影響調査の報告  
Ⅲ 今後の海岸保全事業の進め方

# 浜風 通信

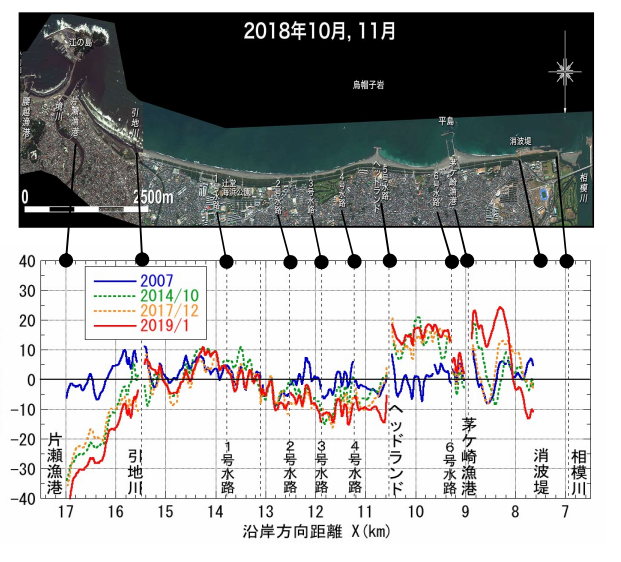
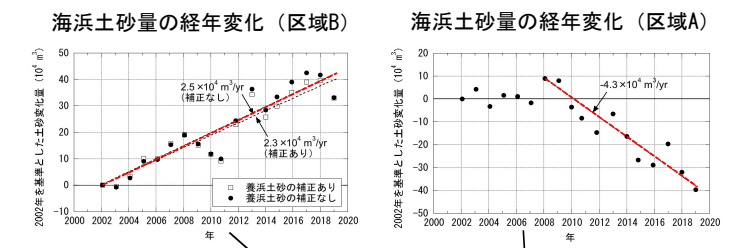
第28号  
発行：神奈川県藤沢土木事務所  
なぎさ港湾課  
住所：茅ヶ崎市汐見台1-7  
電話：0467-58-1473  
http://www.pref.kanagawa.jp/docs/ex5/kaigan/chigasaki.html



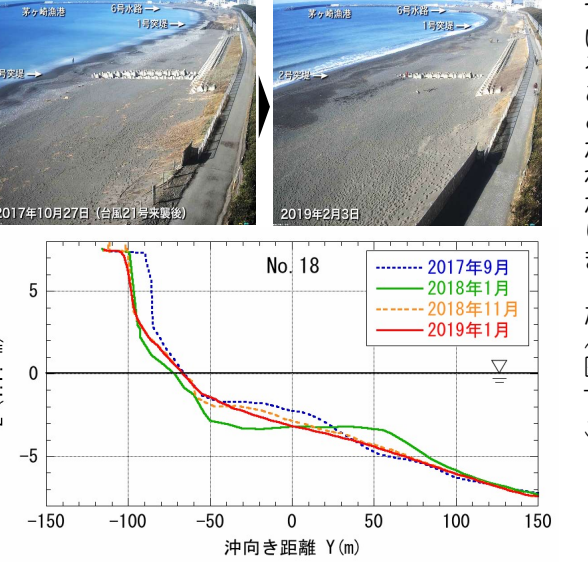
○はじめに  
神奈川県では、平成31年3月23日、第15回協議会を開催しました。協議会の開催に際しては、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。協議会の開催に際しては、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。協議会の開催に際しては、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。

(1) 茅ヶ崎海岸の養浜事業の評価  
茅ヶ崎海岸の養浜事業は、平成31年1月以降、2019年3月までの約41万m³の養浜を実施しています。養浜は、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。協議会の開催に際しては、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。協議会の開催に際しては、茅ヶ崎海岸の養浜事業の進捗状況を報告しました。

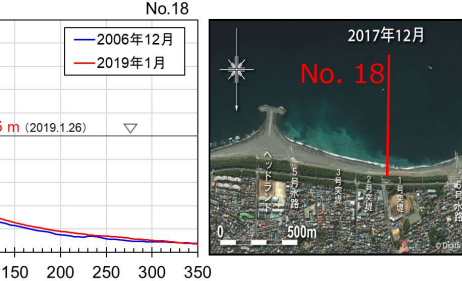
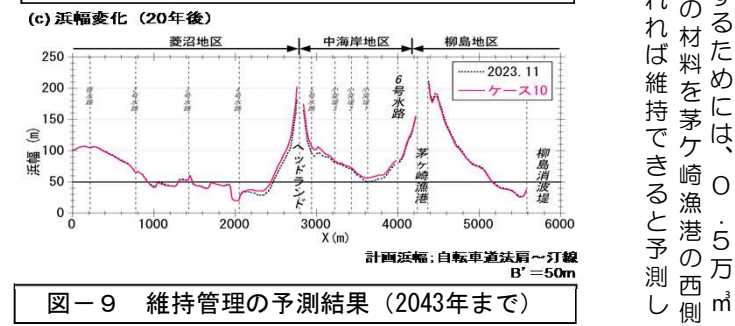
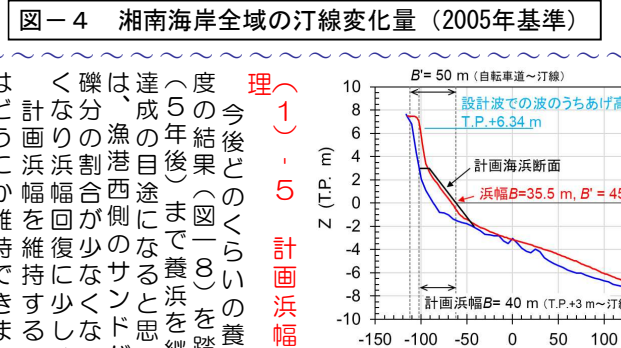
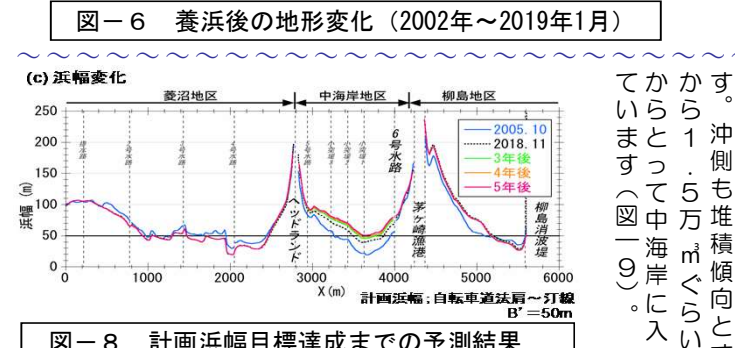
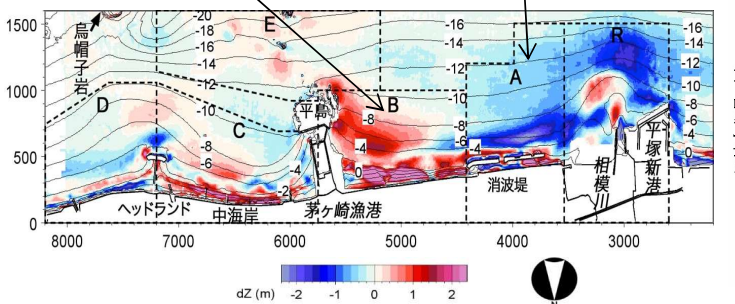
## 第15回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会



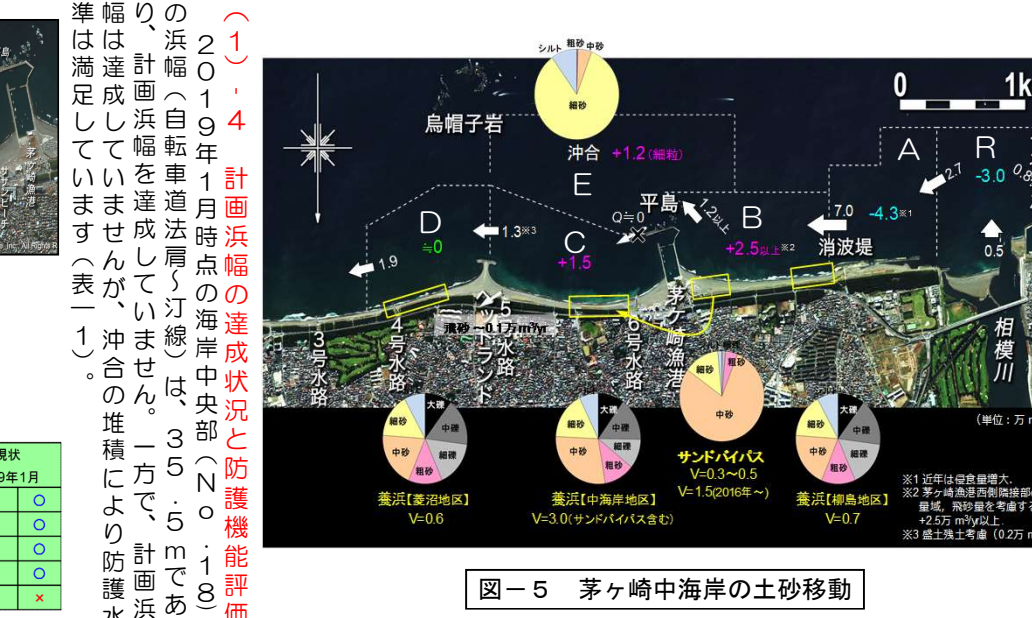
(1) 養浜後の地形変化  
養浜開始以降、経年的に汀線が前進し、砂浜が回復しています。2019年1月時点では、砂浜が回復していることが確認されています。2019年1月時点では、砂浜が回復していることが確認されています。2019年1月時点では、砂浜が回復していることが確認されています。



(1) 養浜後の来襲波浪と台風21号襲来後の回復  
観測史上最大の台風21号による高波襲来により、茅ヶ崎海岸でも各地で侵食、被害が確認されました。観測史上最大の台風21号による高波襲来により、茅ヶ崎海岸でも各地で侵食、被害が確認されました。観測史上最大の台風21号による高波襲来により、茅ヶ崎海岸でも各地で侵食、被害が確認されました。



評価項目	防護水準 目標値	養浜前		計画海浜断面		現状	
		2006年12月	2019年1月	2006年12月	2019年1月	2006年12月	2019年1月
波のうちあげ高 (T.P.) (R+H.H.W.L.+余裕高0.5m)	<T.P.+6.5m	+6.64	×	+6.39	○	+6.34	○
越波流量 (qm³/m/s)	<0.02m³/m/s	0.041	×	0.016	○	0.016	○
根固め機能 (m)	B > 20m	13	×	40	○	35.5	○
相模湾沿岸海岸保全基本計画での目標浜幅 (m)	B ≥ 30m	13	×	40	○	35.5	○
環境・利用に配慮した目標浜幅 (m)	B ≈ 40m	13	×	40	○	35.5	×



## 第15回茅ヶ崎海岸侵食対策協議会





12/11/2018 10:02:42  
St.8 中海岸9m  
粘土シルト 14.8%  
強熱減量 3.0%  
COD 1.5mg/g



St.12 ワカメ筏25m  
粘土シルト 51.2%  
強熱減量 8.3%  
COD 8.6mg/g

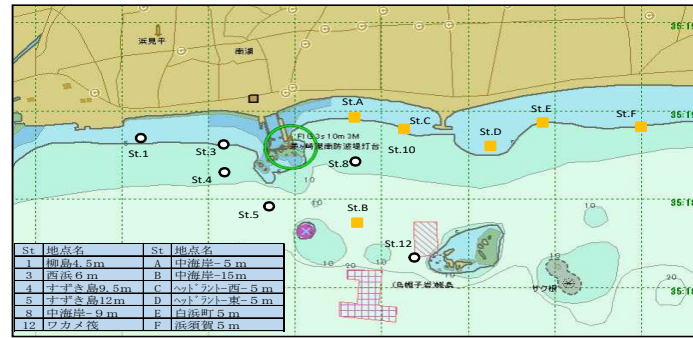


図-10 平成30年 調査位置図

表-2 合成指標の結果

St	地点	年月日	合成指標			
			①	②	③	④
1	柳島4.5m	H30.8.30	-2.26	-2.23	-2.32	-2.29
		H30.11.1	-2.26	-2.24	-2.35	-2.32
3	西浜6m	H30.8.30	-2.29	-2.26	-2.35	-2.31
		H30.11.1	-2.32	-2.28	-2.38	-2.32
4	すずき島9.5m	H30.8.30	-2.05	-2.03	-2.36	-2.33
		H30.11.1	-2.05	-1.98	-2.36	-2.27
5	すずき島12m	H30.8.30	-1.90	-1.88	-2.32	-2.29
		H30.11.1	-1.69	-1.68	-2.34	-2.31
8	中海岸9m	H30.8.30	-1.97	-1.91	-2.12	-2.04
		H30.11.1	-1.95	-1.88	-2.17	-2.08
12	ワカメ筏	H30.9.19	-1.55	-1.24	-1.77	-1.39
		H30.11.1	-1.86	-1.41	-1.21	-0.70
A	中海岸-5m	H30.8.30	-1.82	-1.68	-2.23	-2.07
		H30.11.1	-2.53	-2.47	-2.35	-2.29
B	中海岸-15m	H30.9.19	-2.25	-2.21	-2.34	-2.29
		H30.11.1	-2.45	-2.40	-2.32	-2.26
C	ハットランド-西-5m	H30.8.30	-2.03	-2.02	-2.37	-2.35
		H30.11.1	-2.35	-2.34	-2.37	-2.35
D	ハットランド-東-5m	H30.8.30	-2.14	-2.11	-2.40	-2.36
		H30.11.1	-2.08	-2.03	-2.42	-2.35
E	白浜町-5m	H30.8.30	-2.44	-2.40	-2.40	-2.36
		H30.11.1	-2.48	-2.42	-2.34	-2.27
F	浜須賀-5m	H30.8.30	-2.27	-2.20	-2.39	-2.30
		H30.11.1	-2.56	-2.54	-2.45	-2.42

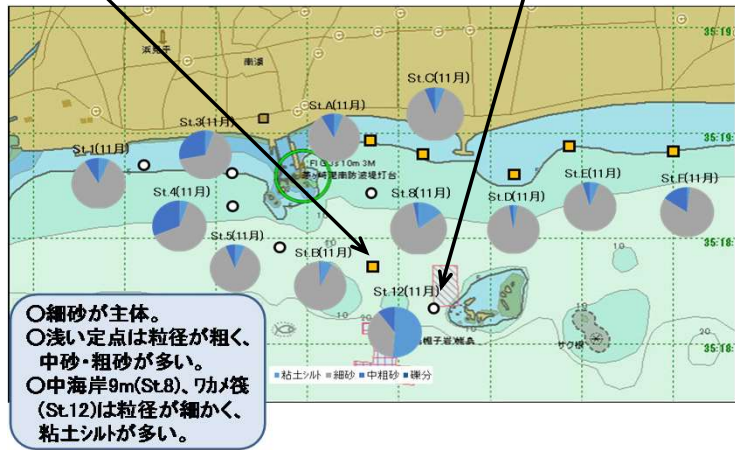


図-12 粒度組成と代表底質写真

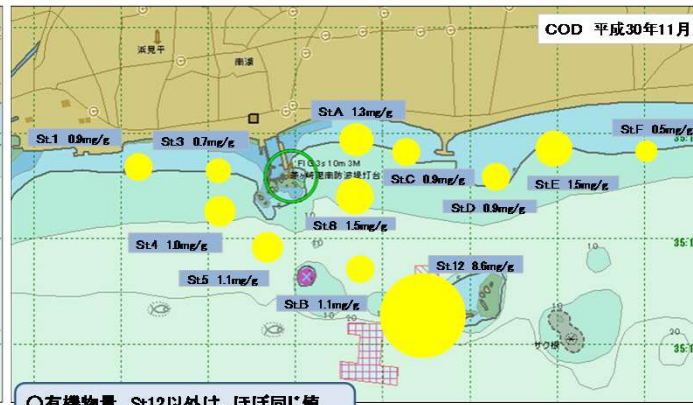


図-11 CODの調査結果

養浜による底質・生態系などの変化を把握するため、これまでに養浜区(中海岸(侵食・養浜域)、対照区の浜須賀(堆積傾向))の2箇所底質(粒度組成、COD、強熱減量、全硫化物)・底生生物調査や波打ち際の生物調査などを経年的に行っています。平成30年から、調査地点を見直し、沖側からシルトの広がりを確認する中海岸水深15m地点、チョコセンハマグリが生息域である水深5m地点を新設しました(図-10)。調査を実施しました。また、茅ヶ崎市漁協さんとお話しして、台風シーズン前の8月終わり、それから台風シーズン後の11月の2回、海底写真については、11月、12月にそれぞれ撮影しています。浮遊物質(SS)がやや高い値(100mg/L)でしたが、異常値という程度ではありません。その他、対照区と比べ特に問題はありませんでした。透明度についても問題ないと思われまます。底質分析の結果、有機汚濁の指標となるCOD及び強熱減量による硫化物含有量(図-11)については、9月と11月の結果、細砂が主体で、浅い方が中砂が多く、沖の方になると、シルト分が多くなる傾向で、前年度と同様の結果となりました。各地点を見てみると、St.12(ワカメ筏)のところでも例年並みにシルト・粘土分が多い傾向で、St.8(中海岸9m)でも同じ傾向を示していました。底生生物については、個体数、種類数は昨年調査よりも少ない結果でした。台風による底質の乱れによって底生生物が十分回復されていない時期に調査した結果である可能性があります。出現種は、例年確認されている種が今回も確認された結果で底質環境的に問題はないという解釈です。合成指標(表-2)は、全地点が負の値で正常、水中観察、直接テレビ観察結果も特に問題ありませんでした。

●第15回茅ヶ崎中海岸侵食対策協議会

(2) 養浜環境影響調査

◇ 主な意見・概要

- ① 現在の砂の流れは、土砂が江の島方向に年間3万m<sup>3</sup>移動しているのに対し、相模川からの土砂供給は5千m<sup>3</sup>である。この状況で将来柳島地区はどうなるのか議論が必要と思われる。
  - ② 茅ヶ崎漁港西側から砂をとって養浜しているが、駐車場付近の飛砂だけを使用している。偏りによる急な地形変化が生じないよう、砂をとるにもバランスが必要と思われる。
  - ③ 今後養浜の材料として宮ヶ瀬ダムの上流土砂が候補に上がっているが、使用する前に、どのようなものなのか、実際みる機会を設けたらどうか。
  - ④ 養浜材料が、砂か泥かで議論されているが、生物的にきれいな砂は好ましくないのである。現在生息する生物を調べることで環境知することは大事なことがある。
  - ⑤ 茅ヶ崎漁港西側からとった砂を養浜しているが、かなり細かく歩くとすぶすぶといった感じで沈む。礫等を混ぜた方が固まりやすいのではないかと。
  - ⑥ 茅ヶ崎漁港西側の砂をとっているが、海岸が延びているため汀線を後退させるようにもっと海側からとってもらいたい。飛砂による漁港内の被害で作業がままならない。
  - ⑦ 茅ヶ崎漁港堤防西側で水深が浅くなり、波が年々高くなっている。また、港出口でも同じような状況のため、その周辺の浚渫をしてもらいたい。
  - ⑧ ヘド口状の底質による濁りがひどく、生餌が死んでしまったことがある。この底質の広がりを調べてもらいたい。
  - ⑨ 黒色のシルト・粘土の底質は、養浜材料からできてくるものか、または自然に流れてきたのか知りたい。この底質の中にはプラスチックごみが含まれる。養浜との因果関係は不明だが、原因は知りたい。
  - ⑩ 緊急補修のため使用している土のうについては、高波浪により海中に浮遊し船舶にとっては危険な存在であることは昨年度説明したとおりである。それに代えてネットを使用するかコマットであるが、その耐久性と壊れた場合の処理方法が知りたい。
  - ⑪ 6号水路が汚く悪臭がする。また、ごみが溜まりやすい。特に6号水路を延ばしてから、その傾向が強くなった気がする。
  - ⑫ 柳島地区の下水処理場付近の水質について調べてもらいたい。
- 今後の予定  
委員の皆様にはお忙しい中ご参加いただき、誠にありがとうございました。今後の養浜事業は、計画浜幅を達成できる見込みまで、養浜事業(3万m<sup>3</sup>/年)を継続し、砂浜の拡幅を図ります。養浜工事につきましては、シラス漁を考慮した時期に予定いたします。その期間は多くのダンブトラックが国道134号を通行し、サイクリング道路を横断いたします。また、養浜により海面に濁りが発生いたしますが、この濁りは、本来、相模川上流から出る濁りに河川までなされることにより発生するものとほぼ同じもので有害物質が含まれないことを確認しております。安全に留意し工事を進めてまいりますので、海岸・道路利用者の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。